

# まちづくりと公共交通対策特別委員会記録

1 日 時 平成31年1月29日（火曜日）

開 会 午後 1時56分

閉 会 午後 2時 7分

2 場 所 第2委員会室

3 出席委員 7人

委員長 村 家 博

委 員 岡 部 享

// 石 森 正 二

// 押 田 大 祐

// 高 道 秋 彦

// 橋 本 雅 雄

// 赤 星 ゆかり

4 欠席委員 4人

副委員長 松 井 桂 将

委 員 上 野 蛭

// 金 厚 有 豊

// 有 澤 守

## 5 職務のために出席した者

### 【議会事務局】

議事調査課長	福原	武
議事調査課長代理	石黒	隆司
議事調査課議事係長	中山	崇
議事調査課主事	平瀬	航

## 6 会議の概要

委員長 ただいまから、まちづくりと公共交通対策特別委員会を開会いたします。  
松井副委員長、上野委員、金厚委員及び有澤委員が都合により欠席されますので、御報告いたします。

〔報道機関のテレビカメラ撮影を許可〕

委員長 まず、委員会記録の署名委員に、石森委員、押田委員を指名いたします。  
本日の協議事項は、本特別委員会の見直しについてであります。  
事務局を通して皆さんに事前にお伝えしておりましたとおり、本特別委員会は、まちづくりに関する調査・研究及び公共交通の整備・促進に関する調査・研究という目的により、平成18年度に設置されましたが、北陸新幹線の開業や市内電車環状線化事業の完了、南北接続を含む駅周辺整備や中心市街地整備等の事業に一定の見通しが立ってきたこと、また、政策の基本としてきた公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりの認知度が高まり、広く浸透し、国内外からも高く評価されるに至ったことなどから、その調

査目的や特別委員会としての役割は一定程度達成されたと判断し、本特別委員会は今年度をもって調査を終了し、新年度以降は建設委員会等へ引き継いでいくべきと考えております。

本日は、このことについて、委員の皆さんの御意見をお聞かせいただきたいと思いますので、どなたからでも御発言をお願いいたします。

岡部委員

委員長が提案された中身は全く理解しないわけではないのですけれども、私は正直に言って、やっぱり富山市としては北陸新幹線の開業よりも南北接続が一番大きな課題かなと思っています。その意味では、この事業についてはまだ1年ぐらいかかるわけでありまして、特に富山駅北口はまだ全く整備がされていないということを含めれば、少なくとも南北がつながるまではこの特別委員会を継続すべきではないかというのが私の率直な思いでございます。

押田委員

社民党の岡部委員の、南北接続まで1年間あるのでという今の話もわからないではないのですけれども、活力都市創造部の設置があって、建設委員会とかぶる議案が非常に多かつ

たような気がするのです。今の南北接続の話も建設委員会の中で引き続きやっていけるのではないかなというふうに感じます。

もう13年間も長くやってきましたので、一旦使命を終えて、今度は逆に建設委員会の中での議論の充実に向かっていけばいいのではないかなと思います。

赤星委員

確かに、この特別委員会で説明を受ける事業は、富山市の中心的なビッグプロジェクトが多かったですね。ただ、特別委員会のあり方として、当局側から説明したい、発表したい事業がある場合にその説明をされまして、議会側、この委員会側としては、説明について幾らか質疑をする程度で—この特別委員会で説明されるものは特に議案ではありませんし、予算案でも条例案でもないということで、権限が曖昧といいますか、平成18年の設置から13年がたちまして、特別委員会の意義そのものがちょっと薄れてきているのかなというふうに私も受けとめていました。

むしろ、委員長がおっしゃったように、今後は建設委員会の場に引き継いで、建設委員会はまさに議案の審査をしますから、チェック機能も果たしながら、十分な、活発な議論をしていくべきではないかなと思います。

委員長

赤星委員の意見としては、説明されるものは予算案でもないし、それこそ言ってみれば、建設委員会と重なる部分もあるということで、あまり意味をなしていないのではないかなと。私が先ほど言いましたように、その平成18年というのは、これから北陸新幹線の開業があったり、市内電車の環状線化事業の完了だとか、そういうことに向けて一もちろん先ほど岡部委員が言われました南北接続を含む駅周辺整備や中心市街地整備等、これがちょうど始まるといいますか、大きな課題であったわけです。それについて一定のめどがついたということが一番大きな要因ではないかなと私は思います。

一番の問題は、項目がいつも建設委員会と重なるということで、予算の審査がない特別委員会ですから、そこら辺にある程度の重みがないという部分で言えばそうかなという思いがあります。

まだほかにありませんか。

石森委員

私も2年間、建設委員会に所属しておりまして、このまちづくりと公共交通対策特別委員会にも出ている中で、正直に言って、書類を整理していても、これはどっちの委員会の資料だろうというくらいに内容が同じもの等々

あるのです。

ただ、平成17年に市町村合併があって、すごくインパクトの強い事業を富山市で行う中では、やはりこういった特別委員会は非常に重要だったと思っています。

市に活力都市創造部ができて、建設に関するものも非常に細かく部署をつくられてやっている中では、常任委員会とといいますか、建設委員会の中で十二分に論議できるくらいになってきているなというふうに思っております。特に平成31年度は南北接続に関する最終年度ということでもありますので、議会としてもあまりたくさんの組織をつくらず、やはりそれもコンパクトにしてしっかりと議論をするのがいいのではないかというふうに思っております。

岡部委員

皆さんの御意見は非常にわかるのですけれども、私はやっぱりこの南北接続が終わった段階というのが区切りとしてあるのではないかという意味でも言ったわけでありまして、これもぜひ考慮いただければと思います。

委員長

まちづくりという観点からは、非常に大きな捉え方なのですよね。ただ、流れを見ていますと、まちづくりと言うけれども、活力都市創造部

の案件がほとんどなのですよ。富山市という大きな捉え方から言えば、教育もあれば福祉もあるし、全てがまちづくりの一端なのですよ。だから、ほかの部局も一例えば企画管理部でもどこからでもまちづくりという観点でそういう案件が出てくればいいのですけれども、流れをずっと見ていますとほとんど活力都市創造部からしか出てこないのです。それも経緯になっているという思いを私自身は持っているのです。

まちづくりという大きな観点から見れば、ほかの部局からも一先ほど言いましたように、やっぱり福祉も教育もまちづくりの一端ですしね。だから、そういうほかの部局からも出てくればいいのですけれども、なかなか出てこないという現状を踏まえて、どうなのかなと。

それとやっぱり一番大きなものは、一定の見通しが立ったということと予算の審査がないということだと思います。

ほかにありますか。橋本委員、ありませんか。

橋本委員

ないです。もうこれで全てだと思っていますから。



委員長 高道委員もよろしいですか。

高道委員 はい。

委員長 それでは、一通り皆さんの意見はお聞きしました。  
どうでしょうか。岡部委員、採決は挙手による方法でとらなければならないでしょうか。

岡部委員 いえ、結構でございます。

委員長 それでは、今ほどの皆さんの意見をお伺いしておりますと、本特別委員会の役割は達成されたとの意見で一致しているということで、今年度をもって本特別委員会の調査を終了することとしてよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

委員長 それでは、そのように決定いたします。  
なお、今後につきましては、正・副委員長及び事務局にて、議長に提出する調査結果の報告書（案）を作成し、出来次第、委員の皆さんにお配りしたいと思います。  
そして次回は2月21日（木）午後1時10分から本特別委員会を開催し、報告書（案）

の内容について、委員の皆さんから御意見を  
いただきたいと思いますので、それまでに各  
自御検討いただきますようお願いいたします。  
これをもって、本日のまちづくりと公共交通  
対策特別委員会を閉会いたします。

平成31年1月29日  
まちづくりと公共交通対策特別委員会記録署名

委員長 村家 博

署名委員 石森 正二

署名委員 押田 大祐